

Fun Fun Fun が駅伝ライブ開会宣言前の演奏・

恒例の駅伝ライブ第四回は子供たちの合奏とハンド・イン・ハンド募金の説明と協力感謝の言葉のあと開会宣言が始まった。



Fun Fun Fun

楽々ホール

ギャラリーカフェ集



音の風プラスチーム



潤(じゅん)



ひょうたん島



津軽三味線・徳田恵美



fulare\_psd&ハイブスカス



井上昌俊とハッピーバンド



JAKKEN



沖縄音楽のなほ



J-MAC'65



さちやまな~み

紙面の都合で写真は2分にも掲載しています。

11/11

第4回

駅伝ライブ

ユニセフ・ハンド・イン・ハンド募金協賛

「みんなでつくる子ども未来」を合言葉に、第4回駅伝ライブが11月11日(日)開催された。17ユニット総勢100名弱のミュージシャン等が前回と同様「ユニセフ・ハンド・イン・ハンド募金」に協力したイベントだ。ジャズ、クラシック、フォークなどジャンルが違うユニット総勢100名のミュージシャンとス

「たすき」を引継ぎ途切れることなく演奏が続く。(昼1時半から夜8時迄)今年「ファミマ」店頭でも中学生の姉(ゆきちゃん=ポカール)小学生の弟(ふうとらムなど)のコンビほか「出前ちんどん」の学生達が路上ライブで七条通の両側を歩きイベントを盛り上げてくれた。第1回から連続出場「Fun Fun Fun」は、近くのピアノ教室に通う5歳から10歳の子どものユニットで、見事にジャズのスタンダー

今回のイベントは前年の二倍以上の参加協力金や募金が集まりユニセフへの寄付は134,035円に上った。ご参加の方、ミュージシャン・スタッ

主催：駅伝ライブ実行委員会

集西楽サカタニのギャラリーカフェ「集」楽々ホールを30分交代に使用、リーダーが「駅伝」のように

タツフ20名がボランティアで参加

集西楽サカタニのギャラリーカフェ

「集」楽々ホールを30分交代に使用、リーダーが「駅伝」のように

発行者 株式会社サカタニ 集西楽・サカタニ ファミリーマート サカタニ京阪七条店 〒605-0993 京・東山区七条こころ坂下・075-561-7974 URL www.sosake.jp/ E-mail info@sosake.jp とんからりんは 毎月発行の 会員新聞です 編集・酒谷義郎 yosi rou@sosake.jp



七条こころ坂：こころちゃん

ドナンバーを演奏し全員で開会宣言をした。保護者や他のミュージシャンもその演奏に拍手喝采。オープニングから大いに盛り上がった。この駅伝ライブの初回はスマートフォン地震津波支援のために開催、その後ユニセフの「ハンド・イン・ハンド募

マだはら月有は涙月で団い月地空「言今わ、破、な、ン、只、大、集、場、源、か、人、は、こ、り、輝、茶、は、そ、静、面、放、か、の、線、こ、の、星、上、な、も、向、な、一、ど、ん、つ、き、一、

第4回：駅伝ライブ 1ページの続き写真

楽々ホール

ギャラリーカフェ集



ファミマ店員faetバヤシ

今回はイベントをファミマ店頭も使い街頭募金のご協力いただき

フィナーレ

フィナーレはギャラリー集には入りきれず「酒屋」スペースも使い、歌、拍手、踊りも有って大いに盛り上がった



出前ちんどん



ユニセフ街頭募金



石橋健一郎



奥村兄(姉)弟



福袋



フォーレスト

黒田清さんを偲ぶ会

開催日：2007年12月15日(土)
時間：午後1時30分～3時30分
場所：ギャラリーカフェ集
京都・東山七条本町西
ファミマ・マートサカタニ京阪七条店2F
京阪七条駅東・南側歩いて1分
075-561-0162
会費：500円
ゲスト：矢野宏氏
うずみ火編集者・黒田ジャーナル記者
呼びかけ人：梶寿美子
075-231-2425
酒谷義郎 075-561-7974

ザラにあることだ。反対に良いことも偶に有るが(少ない)。科学が進歩しても、如何なる賢人でも予想や想像は出来ない。経験則でも一秒先は読めない。偶然不等と浮が卵附等呼号は必然でない。私の車運転歴は56年、その間無事故、それがふと千二百円の差で事故にあった。「大難が小難」で済まないことは何時起るか判らない。命が第一との教訓を得た。丁度10月の「朝粥会」の前「とんからりん」11月号から紙面改良に掛かっていて最中のこと。差しさわりで誤字や版組ミスの不手際をした。お許しを!

ヨシイちゃんのひとりごと

千二百円 惜しんだバカ

10月17日、昔「べじべじ俱樂部」事業用につくった残高五千円の銀行預金解約に銀行へ出かけた。もう忘れていた預金、久しぶりに祇園の有名そば店「て天ぷらそば(二千円)」でも食べようと思っていた。窓口で貰ったお金は五千七円。平成11年5月からの利息所得は七円、年一円の勘定。一年一円のお金を重く感じ「そば代」には使うのは「もったいない」と銀行に来る途中に見た「力餅」の「もう一度食べたい」キンカレー井・八百円の看板が浮かんだ。天麩羅そばより千二百円安いとそれ決めた。



東大路は自転車は歩道を走れず、さりとして車道はトラック、バスが多い。生身の自転車では怖く帰りは小道を選んで六波羅蜜寺前の道路に出た。右から来るワゴン車が見えたトタン、その前部が私の自転車の右から衝突しワゴンは止った。出合い頭事故!。一瞬の出来事だが、近づく

地面から頭を護ろうと両手がかばった。唇とかばった左手から少し血が出ていたが大して痛くない。相手方の車に私と自転車をのせ店まで帰った。祖母が良く言っていた「大難が小難」で済んだと「事故」にするのは辞めて、相手と別れた。(前号でその反省を書いた)後のレントゲン検査で何所にも骨折は無かったが、その夜は寝返りが出来ないほど痛み五日程右手が不自由、今も左手の腫れは引かない。さて、あの時天麩羅そばを食べに行っていたら帰る道は違ふ事故の場所は通らない。結果として事故にあわない、千二百円を惜しんだ馬鹿が悪いということになる。

だが、似たようなこと、1.2秒の差で「生死」が分かれる諸々の事件、事故、諸々は私

第三十六回 第3日曜定例 朝粥食べておしゃべり会

12月16日(日)
午前9時～10時半
イベント：食前30分
お話し：池内一博様
光源氏を追いかけて
来年は紫式部の「源氏物語」が生まれて千年。主役の光輝く美子・光源氏のお話
必ず予約して下さい
定員30名強で締め切り
参加費：一般300円
会員様200円

黒田清さんを偲ぶ会 開催にあたって

マスコミがマスだけ追ってでコミはサッパリな感じがする。その今、強力な個性と平和への情熱の黒田さんがいららと思っている。氏と戦友だった矢野宏さんが来られるの梶様と共に「会」を企画した。お申込み12月10日迄

黒田清(くろだ きよし)氏略歴

1931年、東京生まれ。1951年、読売新聞大阪本社に入社。1971年より社会部長。人気コラム「窓」の執筆など、独自の記者活動を行う。1983年「警官汚職」(角川書店)で日本ノンフィクション賞、1988年には読売新聞連載「戦争」と「戦争展」で菊池寛賞を受賞。1987年、読売新聞社を退社、「黒田ジャーナル」を設立。「窓友会」を主宰、月刊「窓友新聞」を発行、テレビ、ラジオ、講演など活動。2000年7月23日、すい臓ガンのため死去、享年69歳。



